

3 1 5 4

1 (表紙)

大谷九右衛門

延享五年

口上之覚

辰四月十一日書上申候扣

2 (白紙)

3

覚

一 從村瀬六郎左衛門様、御上^江此度御役筋故
被為仰上候私身分ケ條之内

一 御上^江對シ九右衛門過言之申候趣、九右衛門家督魚
問屋之儀^者從

国主城主御自由^ニ者難被成御儀^与申上候由、則
御上聞^ニ相達候段、風聞奉承知仕千万恐入迷
惑至極奉存候、此段江府より因府迄五年以前子之

4

三月十九日^ニ歸着仕候、其以來六郎左衛門様へ為御窺
罷出申候節、何之節を以右之過言恐を不見返
申上候儀、於私^ニ無御座と奉存候

一 御上^江御用之御肴等被為仰付候節^者、則下作
舞之間屋共參上仕御用之旨相蒙御請開申上
来候儀^ニ御座候、生生六郎左衛門様^江私儀為御窺
罷出候折柄、右申上候通何之入割被懸仰候^ニ
よつて、御面上^ニ過言申上候儀毛頭覺無御
座御事

5

一 六郎左衛門様^江御出入申上候松風屋弥兵衛^与申者、此
者之儀、四年以前丑ノ六月六郎左衛門様鳥取御出勤

之節御来書を以右之弥兵衛儀私家録⁽⁴⁾魚問屋

下作舞として召抱候様^ニ御頼被為下、尤上町
下町問屋此以後^者打込^ニいたし、右之弥兵衛勤来之
治右衛門兩人^ニ以來私より申附候段、再三以尊書
被仰下候御事^{ニ而}御座候、右之趣御返答申上候儀^者
私義家筋を存立御東^江為御願罷下り候

借用前後物入御座候、元来魚問屋之家録を

6

質物ニ入、其上居家財砂畑等迄も質物ニ書入、
借銀年々仕、江戸往来前後八ヶ年振ニ帰国仕候
仕合ニ御座候故、物入段々及高借難儀仕候、右借用
銀主取組之儀_者皆治右衛門八右衛門兩人より其身分_江
請借り出、跡より江府へ仕登セ仕、依之私江戸より
罷歸候儀ニ御座候得_者此度御頼を以八右衛門を放シ
弥兵衛治右衛門兩人_江申付候儀_者於私ニ忠儀を
いたし候者を子細なふして暇遣候儀も難仕儀ニ

7

御座候、然ル上_者尊前様_江奉対弥兵衛儀召抱下
作舞いたさせ可申上候旨御請申上候、然ル所弥兵衛儀
元来不勝手者_{ニ而}御座候故、問屋仕切錢段々不埒
仕、其上手前へ差出申候口錢之儀引込私勝手之
差問難儀仕候段筆紙ニ難延申仕合ニ御座候、則
六郎左衛門様より去々寅年四月日、後藤治部左衛門を以私方_江
御頼被仰付候趣其方_江取納候口錢之内弥兵衛へ_者
八貫文差免、弥兵衛へ遣シ呉候様ニと段々御頼ニ付、無

8

是非御意を不背御請申上、八貫文弥兵衛へ差免
遣シ申儀ニ御座候、其外六郎左衛門様へ奉対、右之弥兵衛へ
何角算用差引之儀ニ付、私之不益を不見返量見
をいたし遣シ申儀度々御座候、其上弥兵衛問屋
勤方仕切錢不通用連々仕候ニ付、雲州浦方御
当所魚中買之者共申合、去々年去秋比迄ニ数度
私宅_江罷出弥兵衛不作舞仕ニ付、往来中買之者共
難儀仕候段断申入候ニ付、其段承知仕、重_而仕切

9

錢等宜通用仕ル段急度申付度々請開仕、尤只今
不埒之儀_者私より言葉を下ケ断申入置候趣ニ御座候
ケ様之儀相重り私量ニも不相叶首尾ニ御座候故
去春より則六郎左衛門様_江御断申上、弥兵衛儀暇を
遣申度奉存候儀_者ケ様ノ之訳、其上尊前様を
冠_ニ着私を履_ニはき無礼、五節句二季之祝儀礼_ニも
手前へ不参、尤算用事ニ付呼寄せ候ても

不罷出万端差問候故、依之御頼之者_ニ御座候へとも

10

御断申上暇遣シ度と段々御断申上候得共、揮_而亦々御頼被為成候故、無是非去年も召遣候所_ニ亦々去年中不作舞、其上私_江差出候口錢之儀段々不埒仕候_ニ付、恐を不見返御断申上、今年_者暇遣申儀_ニ

御座候、此儀_ニ付六郎左衛門様より御買使御役惣大夫殿度々右之入割之御使_ニ御出被成候時節_ニ何之

入割_ニ付先_ニ書頭申候通、私より過言之儀申上候儀

茂_{心頭}_ニ無御座御事_{ニ而}御座候、兎角何角_ニ付

11

六郎左衛門様より私義をば御難題被懸仰難儀仕罷在候、此段左様_ニ思召可被下候

一 此度從御上被仰出候二ヶ條之御事奉承知仕候
右_ニ書頭差上候通御上を掠私仕候趣毛頭無御座候御事と奉存候

一 御勝手御役人様より被為仰付候御用之趣、次御私用迄も随分入念身_ニ相叶候程之儀_者御請開申上来

相背候儀毛頭無御座儀_ニ奉存候御事、并右申上候通九右衛門儀

12

御上_江奉対過言申上候と之儀、於私_ニ毛頭覺無御座候則六郎左衛門様より之御使衆中へ何之入組を以何之掛り合_ニ付過言申候儀覺無御座候、然共ヶ條_ニ御立御書上被成候得_者、定_而慥之御立可被成御座_与

奉察候、此度之儀、於爰許_ニ去月十二日市兵衛を以右被仰出候御改之趣恐入迷惑至極奉存候、此上_者九右衛門手前御吟味被為遊候上_{ニ而}、其科被為

仰付被為下候段奉願上候、千万其科無御座候ハ、

13

正道之儀御聞直し被為遊被下候段、乍恐奉願候此旨口上を以御請開奉申上候得共、御取上不被成候其上然り候て乍恐愚意之一札を以右_ニ被仰出候ヶ條之趣御請開申上度奉存、則一札相認市兵衛迄差出候得共、是又御取上ヶ不為下、其上四度迄市兵衛を以右之段奉願候所_ニ弥御取上ヶ不被為成趣、市兵衛より私_江申聞候、此段無是非奉存、然ル上_者右之御請開之

一通差上申間敷候、私より市兵衛迄へ申上候口上覚書

14

いたし是を其元覚として此段を御兩人様^江

被申上候段相願候へ共、市兵衛より私へ申聞候^者、此度之

儀^ニ付、九右衛門より書付之儀^者一文字^ニ而も御請不被

為成候と之儀被仰付置候故^者、書付^者取次不申由^ニ

御座候へ^而無是非仕合奉存候、市兵衛より申聞候趣、其方より

何角^与委細之儀御聞上^ニハ及不申候、兎角丑年

迄之通問屋口錢百七拾毫^ハ五百文之分取納メ申

其余分^者今年より取申間敷と之御返答可申上候

15

亦^者弥寅卯兩年之通三拾貳貫文之上り取可申候哉

此段二つ一つとを切口上^ニ而可申上と申詰候^ニ付、随^而

御返答申上候口上之趣

一

此度從御上被為仰出候二ヶ條之次第、乍恐御

請開申上度奉存、愚意之一札相認市兵衛へ以上

四度迄願上申候得共、書付之儀^者御取上ヶ被為成被

下間敷と之御事、無是非仕合奉存候、尤此度

私より書付を以申上候儀^者御願書^ニ而^者無御座候

16

右二ヶ條相蒙候御請開之趣書付を以申上候儀^ニ御

座候へ共、此段御取上ヶ不被為成候儀、於私^ニ無是非仕合^ニ奉存候

然ル上^者、問屋口錢之儀丑年迄之通百七拾毫^ハ五百文取納

其余分堅ク取納メ申間敷と之御儀相蒙、行当り

難儀至極奉存候、私義江府へ罷下り御願申上数年

相詰罷在、八ヶ年振^ニ帰国仕候^ニ付、前後路用

之物入高借^ニ相成、其上今日取続迄も難儀仕

勝手必至^ニ差間千万難儀仕候、然ル所^ニ右之趣

17

相蒙御請申上候得てハ、家続可仕様も無御座、次々

勝手を申上候得^者御上^江対御下知相背恐多

段奉言語絶候、然共私義三拾五年以前極貧^ニ付

御国立去り申度儀乍恐御願申上候所^ニ為御引

留本源院様より魚問屋口錢家録と被為

仰付被下置候段難有仕合^ニ奉存、其節之御定

法を以万端取作舞仕罷在候所^ニ今年^ニ至り御新

法被為仰付行当り迷惑仕候、私家録取納候

18

口錢之儀、分数被仰付借銀之差開可仕様も

無御座、勝手セまり申候得てハ則衣食住之三つニ

相放レ申儀ニ御座候得_者無是非恐を不見返り

右之分数たけ_{ニ而}御請申上候儀_者御断申上、御請

申上間敷候、此段恐入御返答申上候

一

八ヶ年振ニ丑五月其御地より私義帰宅仕候節、類之者共
其外心易人々為見舞参歛之挨拶ニ其方儀

江府ニ相詰候内從日光

19

宮様為御救被仰蒙候段、先達_而致承知

手柄千万ニ存候事ニ候と歛申儀ニ御座候ニ付、私より之

請口返答之趣天道ニ相叶時を得從日光

宮様御太守様_江以御使僧則御憐愍

被御申付置候、大谷九右衛門儀此以後只今迄被御

申付置候通、万事不相替被仰付置候

様ニ御頼被仰進候故、從

御上々様右之御請以御使者被為仰上候ニ付

20

從大和様則御奉書頭戴仕難有仕合生

前之面目不過之奉存候、然ル上_者九右衛門儀御国

法御触万事相背不申候ハ、私之家録之

儀_者從

国主様城主様

宮様_江對御儀定被為成被置候御儀ニ御

座候へ_者、從

御上々様御いらゑ之儀_者御座有間敷様ニ

21

奉存候趣、右之人々_江物語申置候事_{ニ而}御

座候、ケ様之趣杯六郎左衛門様御聞入被為成候ニ付

過言と被仰上候儀ニ御座候哉と奉存候

一

右此度相蒙候ケ條之趣、右より御願申上候通
私手前御吟味之筋被為仰付、其科有無之

儀を以御仕置相蒙可申筈と乍恐奉存候、其御

詮儀無御座候_而、私義科人と被仰付候段、天道ニ

つき申仕合^ニ御座候、乍恐家録問屋店之儀^者

22

先年本源院様御代為御引留被為仰^者

家録^{ニ而}御座候、毛頭私より御願申候儀無御座候
時至り此度御改^ニよつて御国法相背申候
儀も御座候^而、家録御取上ケ、其上如何様被為
仰付候儀^ニ御座候^而も、毛頭御仕置御免可被為
遊様ハ無御座御作法と奉存候

一 乍恐私家名之儀天下^江相達候名目^ニ御

座候と思召被附候段天道^ニ相叶、右之家録

23

頭戴仕、家続仕其上先之

大和様御威光を以関東^江為御願罷下り

御公儀様^江寸志之一通乍恐奉差上候儀^者、

本源院様御慈悲を以身命取続罷在候故と

奉存、莫太之御太恩難有仕合奉存上候、然ル

身として御上を掠、私用重御役人様より

被仰付候御用御私用輕匱^ニ仕、其上

御上^江對過言之申上恐を不見返、不行跡

24

仕候儀相蒙申上候段、生前之面目穢シ後代

之家禁不過之儀と奉存罷在候、然ル上^者

御慈を以私手前其科吟味被為遊被

下候段奉願外ハ無御座候、此趣御不便と被

為思召重々恐多儀^ニ御座候へ共、何とそ此一札

御兩人様^江乍恐御役外御内々^{ニ而}御披見^ニ

御入可被下候ハ、生々世々御太恩^ニ奉存候、尤乍

恐右之趣御兩人様^ニも御見分御内々^{ニ而}被為

25

成被為下置候ハ、此以後私手前御吟味之

刻御心底之御扣^ニも可被為成哉と乍恐奉

存上候

一 六郎左衛門様より御上^江被仰上候ケ條之内、私之

過言之趣右之通風聞^ニ承知仕候、然候^者五年以前

子ノとしより丑ノ四月迄其御地御下屋敷并御向屋敷^ニ

において私御運上御催促之儀^ニ付

宮様殿様^江対、六郎左衛門様御過言被懸仰候儀

26

度々奉承知申儀^ニ御座候、次^ニ私^江も段々御過言相蒙居申候、其趣

一 丑三月於御下屋敷御小屋^ニ六郎左衛門様より私旅宿^江

御使札を以被召寄候^ニ付、随^而参上仕相窺居申候^へ者

御意被成候趣、其方儀御運上両年分右より段々

催促申聞候所^ニ下々上納不仕候段前代未聞不届者

言語絶候、然ル^上者米子^江急^ニ罷帰、右申付候通

御運上銀急度上納可仕候、度々此旨申付候^へ者

27

兎角

宮様を申立候段、ちんふんかんふん之儀^者此方^江者

聞届申^ニ不及無用之沙汰^ニ候、弥御運上不納仕候ハ、

大和様より御手荒^ニ被為成候ハ、問屋家録御取上

可被為成候、左候へてハ

宮様蓮花寺五郎八も跡之祭り^ニ相成可申候、尤

右之御運上差上候役儀中間宮本助右衛門大谷

藤兵衛儀^者米子ま綿作善悪其年之立毛^ニ

より口錢取高下有之事^ニ候、其方作舞之

28

魚問屋之儀^者口錢取高下なく相居り申事^ニ

候^へ者御運上銀先達^而差上可申所何角^与申延引^ニ

およひ候段、心底^ニ隠田之いたし申同前^ニ候、兎角

米子^江罷帰御運上銀上納可仕候と急度被為

仰付候故、私申上候御返答之趣御意之通奉畏候

然共乍恐御断申上候、私義江戸より御当府迄帰

着仕御屋敷御役人様^江罷出江戸表御願申上候

前後之趣御注進奉申上、并日光從

宮様御太守様^江九右衛門儀御頼之筋道

29

被為成御座候^ニ付、其旨^者從周防様御取捌被為

成可被下之旨被仰付其旨相蒙、依之相窺御

当府^ニ未相詰罷在候儀^ニ御座候^へ者私之量見を以

早速米子^江罷帰候儀も難仕御事^ニ奉存候、然ル

上^者從御屋鋪様右之趣周防様御屋敷^江

御達被為成被下候段奉願候、次ニ只今御意被成候趣私之儀、御運上ニ付隠田仕罷在候と被懸仰候此段於私ニ面目無御座候、於米子私家録之御運上被召上候段被為仰付候趣、忤儀相蒙早速

30

右之通江府江以飛脚申越其旨奉承知仕、御運上之御請江戸より申上候儀ニ御座候、然ル上者上納奉仕候儀者於私ニ奉存候、尤御運上御免之儀私より御願申上候儀者心頭ニ無御座候、宮様殿様御儀定之品御座候故、此旨周防様江府御勤番ニ付、則御取捌被為成可被為下候旨被為仰付首尾ニ御座候へ者御上ニ筋道明力ニ相立申儀ニ御座候得者私ニおいて

31

隠田仕申候儀とハ不奉存罷在候所ニ、右之御口上相蒙私ていとハ乍申無是非次第ニ奉存候と申上候右之趣私之儀者如何様被仰付候へても、私身分ニて相済申儀ニ御座候

御上々様対六郎左衛門様右之御言葉者則御過言と愚意之私ていノ者ニ而も奉存上候

1 六郎左衛門様より私江被為仰付候御意之趣、明日ニ至り殿様より旦那様御登城之趣被為仰出、則於

32

御城ニ從

宮様殿様江九右衛門儀御頼ニ付、則御請被為成上候旨、檀那樣江御仰相下り候上ニ而も、其方米子ニ住所いたし候へ者米子惣並之御運上銀者其身よりも是悲被召上事ニ候、其旨相心得可申与之御事ニ御座候、然ル上者私より申上候御請口其段者如何様共御下知次第之儀、相畏可申上候旨申上候御事ニ而御座候

33

右之趣委細ニ申上候儀ニ而者無御座と奉存候へとも近年六郎左衛門様より手代弥兵衛儀御頼ニ付無是非御請申上召抱相遣候儀ニ付、何角与御難題度々被懸仰迷惑仕候、六郎左衛門様江奉対不念者之

弥兵衛^江下作舞申付、其上不益を不見返り
損分いたし居申段御一礼之儀^者毛頭無御座、其上
此度私家御取つふし之ため、則私之ケ條
被仰上、依之御改相蒙身代相究申儀と

34

奉存、私儀身分之覺語仕罷在候、尤無

しつ^ニし^ミば^ミ申^ニ付、如此恐を不見返御過

言之品一々書頭申上候

一 右御頼之手代弥兵衛^ニ付、近年数度難儀不益限り

なく迷惑仕候、去十月六郎左衛門様より村川市兵衛

為御使弥兵衛問屋作舞之儀^両三度私へ御所望

御座候旨被仰付候へとも身^ニ不相叶入割御座候

^ニ付、乍恐市兵衛迄御断申上、御請不申上候

其品段々御座候へ共筆紙^ニ難尽儀と奉存候、以上